

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立広戸小学校

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
<p>「夢」「愛」「学び」を拓く広戸っ子の育成 一元気・やる気・本気・根気 みんなが輝く広戸っ子</p> <p>めざす子ども像 ○にこにこ挨拶 思いやりのある子ども ○こつこつ学習 進んで学ぶ子ども ○いきいき生活 たくましい子ども ○わくわく体験 よく働く子ども</p>	<p>(1)心の教育の充実と人間理解の深化 (2)基礎基本の習熟と学力の育成 (3)健康づくりと安全教育の推進 (4)ふるさと体験と実践力の育成</p>

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 全国(小学校6年生) ○国語A・B、算数A・B、どれも県平均と比べると正答率が低い。 ○国語のローマ字に関しては県平均を上回っている。 ○算数の四則計算は良くできている。</p> <p>県(中学校1年生) ○どの教科も県平均を上回っている。あるいは、近い値になっていることから徐々に力がついていることがわかる。 ○国語では、県平均を大きく上回っている。 ○数学では、県平均を上回っているが、図形や数量関係がやや低い。 ○社会では、県平均を上回っているが、我が国の歴史がやや低い。 ○理科では、県平均を大きく上回りどの分野も良くできているが、比較的電気分野がやや弱い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】 ○地域の行事への参加、ボランティアへの参加率が高い。 ○授業での「めあて」「ふりかえり」をしている意識が高くなってきている。 ○図書館の利用率が高い。 ○テレビやゲームをする時間は県平均より多い。 ○決まった時刻に寝るなど、生活リズムがいつも同じでない傾向が高い。 ○宿題や予習、復習をしている意識がもう少し低い。 ○日々の活動の中で、話し合ったり、話し合ったことをまとめたりしている意識が低い。 ○「書く」という活動そのものに難しさや抵抗を感じている。</p>

成果と課題	課題に対応した改善方法
<p>(成果) ○算数の基礎基本の力が少しずつ付いてきている。 ○「めあて」「ふりかえり」の意識が高まっている。</p> <p>(課題) ○漢字の定着が不十分である。 ○図や表が表している内容が十分理解できず、尋ねられていることと関連づけることが苦手である。 ○聞く話す領域に課題がある。メモの取り方が十分に身につけていない。 ○資料を読み解く問題よりも、長文を読解して解く問題に課題が残る。 ○問題文の読み取り、選択肢の読み取り、問いの読み取りなどに課題がある。</p>	<p>○岡山型学習指導スタンダードの考え方に沿って、子どもの実態に合った授業展開を考える。 ○全校で統一した漢字指導を行うとともに、反復学習によって定着を図る。 ○学カテストの結果を受けて、課題になっている箇所を重点的に放課後学習(週2回)や朝学習で指導する。 ○ノートに自分の考えを書かせ、意見を発表したり、交流したりする。 ○問いに正対して書き表す場などを設定し、教師が適切な評価を行う。 ○教科書でのていねいな読み取りの指導を行うとともに、適用問題を活用する。 ○他教科でも図や表の読み取りをていねいに扱う。 ○問題データベースを日々の授業や朝学習、放課後学習で活用し、基礎基本の習熟、活用力の向上を図る。 ○宿題を学校の授業とリンクさせ習熟を図る。</p>

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)	各校の具体的な達成目標(数値目標等)
<p>○授業評価シートを活用して、授業力の向上を図る。 ○11月の4年、5年の確かめテストで課題に対してどれだけ習得ができているか検証する。</p>	<p>○国語A、算数Aの平均を県平均以上にする。 ○B問題の得点をできるだけ県平均に近づける。 ○予習をしているとする子どもの割合を10ポイント以上あげる。 ○復習をしているとする子どもの割合を10ポイント以上あげる。 ○書くことを苦手と思っている児童の割合を10ポイント下げる。</p>